

令和7年度

パピーナ南荻窪保育園

すくわくプログラム

テーマ： 巧緻性

テーマを設定する

洗濯ばさみをつまんだり、ボタンをとめたりすることを楽しむ。自分でやってみようとする気持ちを大切にしながら、手や指を使う心地よさを感じ取り、挑戦してみようとする意欲や「できた」喜びを育てていく。

活動 かたちの認識

「絞る」「広げる」「干す」「とめる」「たたむ」の言葉を知り、動作を理解する

環境をデザインする

●準備した物 タオル、クリップ、紐

活動スケジュール

3歳児クラス

日にち	令和7年5月9日	
時 間	30	分
参加人数	10	人

探究活動を実践する

●活動内容

洗濯物を洗った後の工程を楽しむ

●子どもたちの様子

洗濯の話をする「お母さんがやっている」と家庭の様子を思い出し、たんたんといろいろな話しか出てきた。

「干す」は聞き慣れない言葉だったようだが、広げる動作を手ぶりで表現することができた。タオルを触ると「つめたい」と感触を伝え、干す工程にも興味津々で、洗濯ばさみの扱いには苦戦しながらも、自分なりに工夫して挑戦する様子がみられた。タオルをたたむ際に「お布団たたんでいるからできる」と頼もしく話す子もあり、たんたんだタオルを「パンみたい」と見立てながら丁寧に仕上げていた。順番を守る姿も見られ、意欲的に取り組みことができた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

洗濯物干しとして触れたタオルを干す。干す経験は少なかったが、普段よりタオルや衣服を畳んだり広げたりする経験がある為、難しい様子は特になかった。前は机上で椅子に30分座った活動だったが、今日は床にお山座りで過ごした。待っている時間も長かったため集中が途切れてしまう様子があった。

講師より

洗濯は身近な生活場面だが、自分たちで関わる経験はほとんどなかったようだった。今回の活動では、実際の工程を楽しみながら体験する中で、「絞る」「干す」「たたむ」などの言葉や動作を自然に理解し、指先を使った細かい動きにも挑戦できていた。

令和7年度

パピーナ南荻窪保育園

すくわくプログラム

テーマ： かず

テーマを設定する

数を数えたり並べたりする遊びを楽しみながら、数のまとまりや順番に自然と気づく。友だちとの関わりの中で、考えたり工夫したりする楽しさを感じ取り、自分なりに数に親しむ意欲を育てていく。

活動 数を比べる

一対一対応の概念を理解する

環境をデザインする

●準備した物 積み木

探究活動を実践する

●活動内容

数を比べて組み合わせてみる

数の比較の言葉「多い」「少ない」を理解する

●子どもたちの様子

「数えないでどちらが多いか調べるにはどうしたらよいか」という問いかけに対し、最初は不思議そうにしていたが、一生懸命考える姿がみられた。お弁当箱の身の部分とフタを使って実際に考えてみると、「身のほうが多い」と思う子「フタのほうが多い」と思う子、「同じ数だ」と考える子いろいろいたが、それぞれにさらに考えをめぐらしていた。また、子どもたちの人数と同じ数のケーキを考えて積み木を並べる場面では、「一人にケーキ一つだよ」と友達に伝える子もいて、同じ数を理解し、それを友達に伝えようとする気持ちがあることがうかがえた。

●振り返りをふまえた気づき

担任より

子どもたちの取って身近な傘や三輪車のカードと子どものカードを利用して、子どもの人数と物の数が合うかを子どもと確認しながら1対1の概念を学んだ。どの児もイメージがしやすい為自然と理解して、講師の質問に答える姿があった。後半で、1人ずつ色の積み木を利用し、子どものカードの枚数に合わせて積み木を出す取り組みでは、講師の質問を理解できずに出す積み木の数が合っていない児もいたが、1人ずつ確認する中で自分の出した数の違いに気が付く児もいた。

講師より

今回は、「数えないでどちらが多いか」を実物を使って比べる中で、一つずつ対応しなから同じ数かどうかを考える姿が見られた。カードや積み木などの具体物を使いながら、目で見えて確かめる経験を通して、「同じ」「多い」「少ない」といった違いに気づくことができていた。活動を通して、数への興味や考える力を育んでいきたい。

活動スケジュール

4歳児クラス

日にち	令和7年5月9日	
時 間	30	分
参加人数	10	人



令和7年度

パピーナ南荻窪保育園

すくわくプログラム

テーマ： ことば

テーマを設定する

言葉の音やリズムを感じ取りながら、しりとりや音あそびを楽しみ、言葉のつながりに親しんでいく。安心できるやりとりの中で、自分らしく言葉を選んだり組み合わせたりする楽しさを広げ、表現する意欲を育てていく。

活動 音の数

いろいろな言葉の音の数を理解する

活動スケジュール

5歳児クラス

日にち	令和7年5月9日
時 間	45 分
参加人数	10 人

環境をデザインする

●準備した物 なし

探究活動を実践する

●活動内容

物・絵を見て発音して、音を数えてみる

三音の言葉を発表する

●子どもたちの様子



子どもたち音の数を感じ取るために、自分の口の動きを意識しようと、両頬に手を当てたり、大きく口を開けたりするなどの姿が見られた。言葉の音の数の理解が進むと、テンポよく次々に発言が出ていた。その後、講師と一緒に確認する場面でも、楽しみながらリズムよく活動が進んだ。1音の言葉をたずねると、「木」「目」「血」「歯」などが挙がり、3音では、「かえる」「うさぎ」「リンゴ」「イチゴ」のほか「金庫」といった意外な言葉もあり、その意味を自分なりに説明する姿もあった。友達の発言にも関心を持ちながら、言葉の音に楽しく向き合っていた。

●振り返りをふまえた気づき

担任より

絵カードと文字を表す言葉の数のカードがあったので、それを見て理解することができていたと思う。講師の先生が「間違えても大丈夫」と事前に子どもたちに伝えていたことで、質問に対して自信を持って答える姿も多く見られたのも良かった。

講師より

言葉を声に出して確かめる中で、音の数に意識を向け、自分なりに工夫しながら理解を深めていた。自分の発言だけでなく、友達の言葉にも耳を傾けながら、同じ言葉でも安心して繰り返し発言できるなど、ことばを共有する楽しさや、お互いを認め合う姿勢が育っていると感じられる。日々の生活や遊びの中で言葉にふれながら、音や意味への気づきを深めていきたい。